

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	哲学Ⅱ		
科目基礎情報								
科目番号	0220			科目区分	一般 / 選択			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	電子情報工学科			対象学年	4			
開設期	後期			週時間数	1			
教科書/教材	特にないが、2年時の倫理教科書および資料集があれば参考になる							
担当教員	富田 詩郎							
到達目標								
現代人の思考方法を形成してきた様々な哲学思想の一端に触れることで、様々な難問やパラドックスに気づき、哲学の発想から、常識とは違う角度からものを見る方法を考えることができる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1		現代人を取り巻く様々なパラドックスにとてもよく気づき、哲学の発想から、常識とは違う角度からものを見る方法を考えることが、とてもよくできる。		現代人を取り巻く様々なパラドックスに気づき、哲学の発想から、常識とは違う角度からものを見る方法を考えることができる。		現代人を取り巻く様々なパラドックスに気づき、哲学の発想から、常識とは違う角度からものを見る方法を考えることができない。		
学科の到達目標項目との関係								
ディプロマポリシー 3								
教育方法等								
概要		善悪・美醜・真偽の成立可能性などについて。通史的に代表的な思想家の言説を手がかりとして考える。入門書・啓蒙書や邦訳された哲学書などの記述を参考に上記のテーマについて理解と考察を進め、自分なりの考えを表明できることを目標とする。						
授業の進め方・方法		教員単独による講義を中心とする。必要に応じて、学生による発表と討論を交える						
注意点		講義プリントや資料などの保存・整理を怠らないこと。授業では、毎回、自分で読み・考え・表現することが求められる。 授業への参加の態様も評価の対象となる。授業計画は理解度・関心度などに応じて適宜、変更されることがある。 評価が60点に満たないときは、願い出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者にとっては、その評価を60点とする。 家庭学習の際は使用テキスト・資料などをあらかじめ読んでおくこと。						
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 哲学史を学ぶ意義		学習・評価方法のガイダンス 哲学を人間の営みとしてとらえる視点を理解する			
		2週	古代前期		古代ギリシアの自然哲学 プラトンのイデア論			
		3週	古代後期		アリストテレスの実体 ストア派とエピクロス派 懐疑派			
		4週	中世前期		教父哲学 グレゴリウス アウグスティヌス			
		5週	中世後期		スコラ哲学 アベラール 普遍論争 ドンス・スコトゥス ウィリアム・オッカム			
		6週	近世 1		デカルトと演繹法 ベーコンと帰納法			
		7週	近世 2		スピノザ ライプニッツ			
		8週	近世 3		ロック バークリー ヒューム			
	4thQ	9週	近代 1		社会契約論 ホッブズ、ロック、ルソー			
		10週	近代 2		大陸合理論と英国経験論の統合 ルソー、コンディヤック			
		11週	近代 3		カントの三批判書			
		12週	近代 4		ドイツ観念論 フィヒテ、シェリング、ヘーゲル			
		13週	近代 5		人間への志向回帰 実存主義			
		14週	現代		20世紀の哲学			
		15週	期末試験					
		16週	まとめ 成績評価・確認					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	85	0	0	0	0	15	100	
基礎的能力	85	0	0	0	0	15	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---